



SUSAP 韓国
大邱大学校プログラム

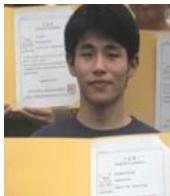
2019. 8. 7~8. 24

参加者プロフィール



山中 梨子（団長）
経済学部
経済法学科 1年

幼い頃から興味を持っていた韓国に留学し、現地で韓国語や文化を学びたいと思い、留学を決意。



松本 凌実（副団長）
経済学部
経済法学科 1年

もともと独学で韓国語を勉強していたが、韓国に実際に行くことで、より日常に近い韓国語を習得できると思い、留学を決意。



木戸 萌梨
農学部
生命機能科学科 2年

夏休みの期間を利用して韓国で生活することで、現地の言語や文化を肌で感じができると思い参加。



岡 綾音
経済学部
経済法学科 2年

韓国ドラマやK-popが好きで韓国語を勉強したいと思ったのとその中で韓国の生活や文化、習慣に興味を持ち参加。



高畠 友紀子
農学部
応用生物科学科 2年

前から留学に興味があり、韓国語を勉強し始めていたので現地で話す、聞く能力を身につけたいと思い、このプログラムに参加を決めた。



倉富 優花
経済学部
経済法学科 2年

基本教養科目で韓国語の履修をきっかけに、もっと韓国語を勉強して現地の人とコミュニケーションをとったり、韓国の文化に触れたりしたいと思い参加



石丸 美月
経済学部
経済法学科 1年

高校生の頃から留学に興味があって、SUSAPを知り、休暇を利用して留学できることから参加を決意。



脇山 愛理
経済学部
経済法学科 1年

元々海外の文化に興味があり、SUSAPを知って参加したいと思った。韓国は特に興味があったので参加した。



福島 さくら
医学部
看護学科 1年

以前から、海外に留学することに興味があった。入学後にSUSAPを知り、韓国にも興味があったため、参加を決意した。



生駒 莉彩
医学部
看護学科 1年

私は韓国のカルチャーに興味があり、それがきっかけで韓国語を韓国で学びたいと思い参加を決めた。

プログラム概要

【期間】2019年8月7日~8月24日（18日間）

【留学先】大邱大学校 北道慶山市珍邑内里15

【内容】韓国語の授業を週20時間行う。ライティング、スピーキング、リスニングなど総合的な授業を受ける。また午後からは、韓国の伝統文化を体験する授業も行われた。放課後や休日には、市内や遠方に出かけることもあった。

【大邱大学校について】

1956年創立した、韓国国内第一位の広さを誇るキャンパスを持つ私立大学。人文学、法科、行政、経営、自然科学、工科、情報通信、生命環境、造形芸術、師範大学、リハビリ科学などの幅広い専門分野を学べる学部がある。学生数は、大学院生が約23000人、学部生が約28000人であり、様々な大学から多くの留学生も受け入れている。

【授業について】

韓国語の授業は、月曜日から金曜日の週5日行われた。授業時間は、1限目9:00~9:50、2限目10:00~10:50、3限目11:00~11:50、4限目12:00~12:50であり、間に10分の休憩を挟む。最初に実施されるレベルテストをもとに、韓国語の習熟度別のクラスに振り分けられる。授業は基本的に韓国語で実施される。ハングルの書き方や発音などの基本的なことから、挨拶や日常生活で役立つフレーズなど、様々な内容を習得することができた。日本人の学生が多いが、モンゴルやカナダ、ベトナムからも様々な年代の方々がプログラムに参加していた。授業中、自ら発言する機会が多くあったので、韓国語の理解をより深めることができた。先生方は、発音も丁寧に教えてくれたので、よりネイティブに近い発音を習得することができた。ゲームなどを交えながら、楽しく授業を受けることができた。

2019夏学期韓国語研修日程表					
区分	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1週	日付 08/05 授業 09:00-12:50	08/06 09:00-12:50	08/07 09:00-12:50	08/08 09:00-12:50	08/09 09:00-12:50
	活動 レベルテスト				キャンバスクリアー (14:00-16:00)
	日付 08/12 授業 09:00-12:50	08/13 09:00-12:50	08/14 09:00-12:50	08/15 休日	08/16 09:00-12:50
2週	活動 学生交流会 08/12 (14:00~20:00)			伝統文化体験 (韓服、シメヨリ、 麗りの着付け) (14:00~16:00)	韓国Makar~up習い (14:00~16:00)
	日付 08/17 授業 09:00-12:50	08/18 09:00-12:50	08/19 09:00-12:50	08/20 09:00-12:50	08/21 09:00-12:50
	活動 農作ワーカー	韓国映画感想 (14:00~16:00)	韓国食ペ饽作り 14:00~16:00		新丁試験わび 修了式
3週					

【大邱での生活について】

・食生活

大学内には、コンビニだけでなくレストランや学食、カフェなども多くあった。大学の前にも、韓国料理の店やパン屋など、安くておいしいお店が並んでいた。大学からバスで10分くらいの街には、もっと様々な種類の飲食店が多くあったので、食べ物に困ることはなかった。

・交通手段

私たちが利用した主な交通手段は、地下鉄、バス、徒歩である。韓国には、「Tマネー」というICカードがあり、バスと地下鉄で利用することができた。コンビニなどで購入することができるので、私たちも1人1枚購入した。バスはどこまで乗っても約125円で、バスと地下鉄の乗り換えは30分以内であれば乗り換え分の料金が無料だったので、とても安い料金で移動することができた。

・生活費

韓国の通貨はウォンである。私たちが韓国を訪れた期間は、1000ウォンが日本円で約88円だった。大邱は、日本に比べて食品や生活用品の値段は安かった。韓国は現金決済もできるが、クレジットカード決済が主流だったので、クレジットカードを作っていくとよい。

「留学を終えて」

経済学部経済法学科 岡綾音

私は18日間大邱大学校プログラムに参加しました。私は韓国ドラマやK-popが好きなことがきっかけで韓国語の勉強を始めました。翻訳された日本語ではなく韓国語をそのまま感じたいと思いこのプログラムに参加することを決めました。日本と韓国の関係が悪くなっていることが不安でしたが、韓国語を現地で学べる期待を胸に韓国へ渡りました。

授業は韓国語のみで行われました。ですが、難しうぎついていけなくなることがないようにクラスはレベル別に分けられていました。そして先生がわからないところを丁寧に教えてくださいました。授業が終わってからは文化体験や大邱大学の学生との交流会がありました。休みの日には各自大邱市内をまわり、ソウルやプサンなどの観光を楽しみました。

留学生活を送っていくなかで私は韓国語を学ぶことが楽しくなっていました。単語や文法を覚え、会話が少しづつできるようになるのがすごくうれしくて、勉強が楽しくなっている自分に驚きました。留学はインプットした言語をすぐにアウトプットできるので、紙の上の勉強だけではできない感情を知ることができとても刺激的でした。

また、韓国で初めて韓国のバスに乗りました。韓国のバスは運転がとても荒くバスが停車する前に扉が開き、乗客が乗った瞬間出発してすごく驚きました。しかし運賃がとても安く一律約125円というところはとても魅力的でした。

他に日本と韓国の違いは働き方に感じました。例えばコンビニの店員でも日本では笑顔で接客するのが基本とされていますが韓国ではそこまで意識されていないように思われました。不愛想ではありました、私はそこまで不快に思うことはありませんでした。そして誰もそのことに不満を持っていないようでした。そのようなところに国民性の違いを感じました。

学生との交流ではたくさん話をしました。まず韓国の学歴社会はとても厳しいことで有名です。私たちは大学生なので就職のことについて気になり、聞いてみ

ました。今韓国では就職が困難になっているらしく、有名な大学でないと良い職に就けないという現状だそうです。そういった状況なので一人の学生は日本で働くために日本語を勉強していると言っていました。やはりそれが韓国の学歴社会が根強く残っている理由なのだと思います。

次に今の日韓関係の話もしました。日本では日本大使館の前でデモをする人々の姿や、日本製品の不買運動を推進しているというニュースが報道されています。そのことを伝えると韓国でも日本を悪く言うようなニュースが報道されていると言っていました。だけど国民全員が日本や日本人を嫌っているわけではなく政府同士の争いであると考え、日本人をわけもなく避けたり嫌ったりはしないと言ってくれました。私も大邱市内でデモの様子を見かけましたが、買い物や食事のために店に入ったとき不当な扱いを受けることはありませんでした。ある食堂のおばちゃんはたくさんのおかずや食後のりんごのサービスをつけてくれたり、また来てほしいと言ってくれてとても優しい方でした。そのように韓国の人々の温かさを感じました。

この留学を通して韓国語を学ぶだけでなく自分の伝えたいことを伝える気持ちも大事であると気づかされました。自分が言いたいことがうまく言葉にならなかったときにジェスチャーなど言葉以外の方法で表現したら、相手も理解しようしてくれました。その時、人の優しさに触れることもできました。日本にいれば言葉を使って意思疎通できるので、初めての経験でした。逆にいえば言語で意思疎通が簡単にできるのでもっと頑張って覚えたいと思いました。韓国での18日間は長いようで短い生活でしたが、毎日刺激をうける日々は自分の人生で大切な18日間になったと思います。韓国だけでなくほかの国にも行ってまた違う文化や考えを知りたいと思いました。



バス車内での様子

「韓国へ留学して」
農学部生命機能科学科 2年 木戸萌梨

私は、韓國の大邱大学校で、3週間短期留学を行ってきました。非日常的な空間での生活は、私にとってとても刺激的な経験でした。私が韓国への留学を決意したきっかけは、実際に現地に行くことで韓国の文化や言語、人々の価値観などを肌で感じたかったからです。また大学生の夏休みは2ヶ月と長いので、いい機会だと思いました。

大邱大学のプログラムでは、クラス分けテストをもとに、自分のレベルにあった授業を受けることができます。私は韓国語を勉強したことが無かったので、ハングルすら読めない状態でしたが、先生方が優しく粘り強く教えてくれたので、楽しく授業を受けることができました。3週間弱で、教科書を1冊終わらせるので、授業のスピードはかなり早いと思います。なので、毎日夜にその日習った事を復習することを心掛けていました。また、次の日の予習をすることで、より深い知識を得ることも出来ました。先生方は韓国語で授業をするので、最初は話している内容が全く分からなかったのですが、勉強を重ねていくにつれて何となく理解することが出来るようになりました。最終日には、筆記と面接の試験が行われました。面接の試験では、ハングルで300字程度の文章を書いて、それをスピーチしなければなりません。自分で文章を書いて、その内容を覚えることはとても大変でしたが、やり遂げる事で、自分の自信に繋がりました。また、韓国映画鑑賞や、トッポギ作りなどもプログラムに組み込まれていたので、韓国文化を体験しました。

休みの日には、大邱市内や慶州などに出かけました。バスや地下鉄の中では、お年寄りに席を譲っている光景を、日本にいるときよりも、よく見ました。上下関係をとても大切にしている韓国ならではだと思いました。大邱は、釜山やソウルと比べて日本人観光客の数が少なく、日本語はもちろん英語もあまり伝わらない環境だったので、必然的に韓国語を使う機会が多くありました。なので、韓国語を学ぶ上でとても良い環境だったと思います。韓国では日本と違って、飲食店の

店員さんが携帯を触りながら接客をしていたり、バスの運転手がご飯を食べながら運転している光景を多々目にしました。最初は凄くびっくりしましたが、これが韓国では当たり前なのかと思うと、自然に受け入れ事が出来ました。日本では当たり前のことも海外に行くと当たり前ではないと言う事を実感しました。この体験を通じて、様々な価値観を持った人々がいることを再認識しました。他人の言動を直ぐに批判するのではなく、その人の育った環境や文化なども考慮した上で、互いに認め合い理解しようと努力することがとても大切なではないかと思いました。

大邱大学の学生と交流する機会もありました。大邱大学で日本語を専攻している学生に大邱市内を案内してもらいました。私が話した学生さんは、まだ日本語を勉強し始めて約1年と言っていましたが、とても上手に日本語を話していました。日本語を積極的に話そうとしていて、とてもいい刺激になりました。

また、6月に佐賀大学に来てくれた学生とも再び会うことができました。私の事を覚えていてくれてとても嬉しかったです。韓国的学生は、自分の将来についてとても深く考えている人が多く、同じ学生として、自分の考えの浅さを改めて感じました。大学生のうちに、もっと進路の事についてしっかりと考える機会を持たなければいけないなと思います。

現在の日韓関係については、ニュースでデモの映像などをよく見ていましたので、留学前は不安や恐怖がありました。都会の方に行くと反日運動を目にすることがありました。地下鉄で、現地の男性に少し嫌な顔をされたりもしました。日本でテレビの画面を通して見るよりも実際に自分の目で見るほうが、感じる物は多くありました。しかし、それ以上に優しくて温かい韓国の人々は多くいました。ご飯を食べに行った時に日本人と伝えると、日本語で話しかけてくれたり、料理をサービスしてくれたりと、とても親切にして下さる店員さんも沢山いました。勝手に韓国に対して恐怖心を抱いていたのですが、それは思い違いだったことを痛感しました。私達は、よくメディアの情報を鵜呑みにしてしまっていますが、それがどれだけ危険で悲しい事なのかも思い知らされました。海外に行くというこ

とは少しハードルが高いと思いますが、現地に行くからこそ感じられることも必ずあると私は考えます。そして、このような状況での留学だからこそ、学べた事が沢山あると思いました。

この3週間は本当にあつという間で、すごく濃い毎日を過ごすことが出来ました。例え言葉が上手く通じなくても、自分から主体的にコミュニケーションを取ることで、様々な人達と交流する事が出来ると言う事も、強く実感しました。この留学は私にとって、凄く有意義なものになったと思います。これからも、外国語の勉強を継続すると共に、もっと国際交流に携わっていきたいです。



国際寮の前での集合写真

「韓国での18日間」

農学部応用生物科学科 2年 高畠友紀子

私は、大邱大学校プログラムに参加してきました。このプログラムに参加した第一の目的は韓国語の習得し、現地の人とコミュニケーションがとれるようになることでした。韓国文化や韓国人の価値観に触れることができたので詳しく記述していきたいと思います。

大邱大学校は大邱市内から地下鉄とバスで約1時間の場所にあり、キャンパスは韓国で一番広いので最初は大学内で迷子になりそうでした。事前に受けたテストでクラス分けされた授業を受けます。先生は韓国語で話すので、初日は聞き取れず授業内容についていくか不安でしたが勉強するうちに理解できるようになりました。話すこと重視のテンポの良い授業で、とても分かりやすく教えてくださいました。

2週間目には大邱大学校の学生と一緒に大邱市内に行き、佐賀を訪問してくれた大邱大学校の学生と昼食を食べました。初対面でもSNSのアカウントを聞いたり、ご飯に誘ってくれたりしました。韓国人との交流を通して、日本人より人とのつながりを大事にし、人付き合いの壁が低いと感じました。また、思っていたより日本語の勉強をしている学生が多いことに驚きました。韓国では就職先が少ないので日本で就職したいと考えている学生は少なくないそうです。もう一つ驚いたのは、大邱大学校では履修登録が抽選ではなく先着で、何分かで人気のある講義は定員に達してしまうと聞きました。韓国人の勉強に対する意識の高さを改めて実感し、自分も意欲的に大学での勉強を取り組まなければならないと思いました。

食に関するところでは、韓国のコンビニでお弁当やお惣菜をあまり見かけませんでした。お菓子やラーメン、ジュースが主に売られていました。韓国では日本ほど家庭以外で調理されたものを持ち帰って家で食べる中食という文化がまだ広まっていないように思いました。外食をした際に注文は2人前からのお店が多く、ご飯は一人ではなく大勢で賑やかに食べるものという考えがあるのだろうと思いました。さらに、韓国では出前が広く普及しており、簡単にアプリで注文することが

できます。豊富な種類の中から選んで注文して 30 分ほどで温かいご飯が家に届くので、コンビニのお惣菜を買いに行くより出前を選ぶ人が多いのかもしれません。

韓国と日本の違いに触れてきましたが、学生の方と話して日本と似たところを見つけました。韓国には三災という日本でいう厄年に似た風習があります。三災も厄年と同じく三年続き、厄災が多く降りかかるとされています。同じような風習が根付いていることに昔からの交流を感じることができました。

今回、渡韓のとき日韓関係が悪化していたので少し身構えていました。実際、日本製品不買運動の垂れ幕を目にすることができました。しかし、韓国人の方は優しく場所を教えてくれたり、日本人だと分かると日本語で話してくれたり、また来てねと言ってくれました。報道や一部の人の行動だけに焦点を当てて思い込むのではなく、全体を見て判断することの重要さを学びました。

私は、大邱大学校プログラムに参加して、文化の違いや韓国の方の積極性に触れて固定観念にとらわれていることに気が付きました。他の国や人の考え方、価値観を受け入れられる柔軟な人になりたいです。また、韓国を訪れた際に韓国語で学生の方と話せるように韓国語の勉強を継続し、今回出会った人たちとの縁を大切にしたいと思います。今回の留学を通して、様々な異文化に触れるためにほかの国にも留学したいという気持ちが強くなりました。



ポッサムという蒸し豚の出前

「大邱での生活」

経済学部経済学科2 倉富優花

私は大邱大学校プログラムに参加して、韓国との文化の違いや自分の置かれている状況について深く考えることができました。また、日本と文化や習慣が似ている部分があるからこそ気づく部分が多くありました。

大邱大学校プログラムでは平日に 9 時から 12 時 50 分まで、50 分授業が 4 コマあり、韓国人の先生のもと充実した勉強ができました。以前から日本でも、基本教養科目で 1 年間韓国語を履修しており、reading、writing はある程度できていました。しかし、日本で韓国語の勉強というのは、listening、speaking の機会が少ないです。そこで、韓国の人々との交流を通して自分の語学力を高めたいと思ったのが参加するきっかけです。授業では全て韓国語なので listening の力が日に日につくことが実感できます。単語が分らない時には先生がテレビにパソコンをつないで写真を使って説明してくれました。何より大邱大学校プログラムは事前に行われたレベルチェックによってクラス編成をされているので、自分の学力にあった授業が受けることができます最大の魅力だと思います。そのため、自分のペースで無理なく、楽しく学習することができました。また、授業の初めにはわかりやすい韓国語で質問に答える時間があり、ただ知識だけを教えてもらうのではなく、自分の考えをゆっくりではありますが伝えることができました。

授業では、家族や礼儀、予約、交通など実際に韓国で生活するうえで役に立つ内容でした。そのため、早く町中に出で、習ったフレーズを実際に使ってみたいと思いましたし、町中で習った単語を目にした時には、韓国語を理解しているという達成感でとても嬉しかったです。語学を勉強するうえで、たくさんの知識を蓄えることももちろん大切ですが、そのたくさんの知識を町中に出で使うことが、早く上達する道ではないかと考えました。現地の人とたくさん会話、交流することで文化の違いや価値観など新しく気づくこともありますし、話せたという自信、また、自分にはまだ語学力が足りないという課題を身にもって感じるこ

とができます。

午前の授業が終わり、午後からはシティーツアーや、韓国映画鑑賞、伝統文化体験、韓国の食べ物作りなど活発な活動をしました。その中で、シティーツアーでは大邱大学校の学生と交流する機会がありました。学生と話をしていて気づいたことですが、韓国の方たちは他の人についてあまり干渉しないような気がします。ですが仲良くなると、他人であっても目上の人には「お兄さん、お姉さん」と呼び、また連絡を頻繁にします。日本ではいくら親しくても「親しき中にも礼儀あり」とあるように年が違うと敬語で話しますし、聞きにくい質問であれば日本だとデリカシーがないと言われますが、韓国では相手を知りたいなら聞くのは当然のことだと言います。以前、佐賀大学で大邱大学校の学生と交流する機会があり、日本人の友達がいる方がおっしゃっていましたが、韓国の方は日本より強い言い方で、言葉もストレートであると感じました。韓国の方々が、人の目を気にせず、相手のことを思っているからこそだと私は思います。シティーツアーでは3人の学生に案内をしてもらいました。一人の女性の学生は日本語を勉強していて、将来に本での就職を考えているそうです。韓国ではたとえ大学に進学したからと言って、必ずしも就職できるとは限りません。これは日本においても言えることですが、韓国は日本より働き口が少ないと言います。そのため韓国の多くの学生は、夏休みであるのにもかかわらず図書館で勉強をしていました。

個人で大邱大学校のプログラムに参加するのとは違って、学校のプログラムで参加したことによって、今回の短期留学をする前から大邱大学校の学生と交流することができ、事前にたくさんの情報を教えてもらいました。実際に、町内で垂れ幕や講演で不買運動をしている方がいたり、佐賀大学のみんなで行動しているとき、高齢者の方にどの国から来たのか尋ねられ、嫌な顔をされ、避けられたりすることもありました。そのため、夜遅くなっても大邱大学校の国際寮の前まで送ってくれたり、終戦の日には寮から出ないようにと気遣ってくれたり、今年は日本と韓国の関係が戦後最悪と言われる中で、現地の人々の温かさを感じました。

今までではメディアなどの情報だけに目を向けていましたが、直接自分の目で確かめ、視野を広げることの大切さを学びました。

大邱で生活をしていて、韓国の事について知ることはもちろんですが、同時に今の自分の置かれている状況について考えました。具体的に言うと、コンビニやスーパーでの品揃えの素晴らしさや、品物の質の高さです。食べ物に関しては国によって味覚の差があるので触れませんが、品物の数でいうと圧倒的に日本の方が多いです。韓国のコンビニでは、特に生鮮食品の数が少なく、並んでいても日本のものと比べると質が低いように感じました。需要と供給にもありますが、改めて日本が質の高いものが市場にあふれていますし、それが当たり前だと思っていた自分がいました。日本では公衆のトイレが比較的きれいなことであることや、道路整備が地方や田舎でも行き届いていることなど、日本と韓国で似ている部分があるからこそ気づくことができました。また、買い物をしていて韓国の方が現金で支払いをしているのを全くと言っていいほど見ませんでした。ほとんどがキャッシュ決済で、交通機関を利用する際でもT-moneyという交通カードを、お年寄りから子供まで利用していました。私もこの短期留学をきっかけにクレジットカードを利用し始め、決済においての楽さと、時間短縮を感じました。しかし、それと同時に、災害などによりクレジットが使えない場合を考えると、なかなか完全にクレジットに変えることができないなと感じました。これが日本と韓国のキャッシュレス社会の差ではないかと考えました。

今回の留学を通して、語学力や価値観などたくさんのことで成長できました。また、視野が広がったことでもっと広げたくなりました。現状に満足せず、これからもいろんなことに挑戦しようと思います。



修了式にて

「韓国で得たもの」

経済学部経済法学科 1年 山中梨子

私は大邱大学プログラムに参加して、様々なことを体験し、様々なことを学び、考えるようになりました。

まずは、韓国語の授業です。現地滞在中、平日の午前中は 50 分×4 コマの授業をレベル別に分かれて韓国語の授業を計 10 回受けました。韓国語の授業を韓国語で行います。授業は、主に「語彙、文法、書く、読む、聞く、話す」を勉強します。私は最初、韓国語を韓国語で教わることがとても不思議でした。しかし、先生方が一生懸命伝えようしてくれたので、こちらも一生懸命理解しようという考え方を持つようになりました。最終日には、修了テストがあります。筆記と面接式のテストです。今までの授業で学んできたことの総まとめができたのでよかったです。また、私の教室には、日本の方とモンゴルの方がいたので、先生が韓国、日本、モンゴルの違いをしながら授業をしてくださいました。授業の中で、日本と外国の考え方の違いも学べたのでとても有意義な授業でした。同じクラスの日本の方と連絡先を交換して帰国後も連絡も取っています。大切な出会いもありました。

次に、大邱大学校の学生さんとの交流です。プログラムが始まってすぐに、学生交流会が開かれ、大邱大学校の学生さんと市内に出かけて案内してもらいました。そこで出会ったお兄さんとお姉さんはとても仲良くなりました。日本人だけでは行かないところに連れて行ってもらい、韓国の学生はこんな風に遊んでいるというのを教えてもらいました。とても新鮮な感じでした。彼女は日本語で日本についてのいろんな質問をしてきてくれて、とても嬉しかったです。彼女たちは、帰国前にもう一度個人的に遊びに行きました。前回よりもたくさん話せて、学ぶこともたくさんあって、本当に楽しかったし、いい友達に出会えたと思いました。また、6 月に佐賀大学に来てくださった大邱大学校の学生たちがプログラムの最後の週に食事をを開いてくださって、みなさんと再会しました。仲良く

なった子と久々に会えてとても嬉しかったです。主に韓国語で会話をしたのですが、自分の韓国語力の伸びをとても感じました。逆に、彼女たちも、日本語を勉強して、一生懸命日本語で伝えてくれようしてくれた時がありました。その時はとても嬉しかったです。

また、平日の午後、授業後に様々な文化体験をさせていただきました。トッポギを作つて日本の料理とはやはり使う調味料が根本的から違うと感じたり、ユンノリという韓国の伝統的な遊びを体験したり、韓国の映画を鑑賞したり、韓国のメイクアップを学び、日本のメイクアップとの違いを学んだりしました。ユンノリはすごろくのようなもので、最初はルールを理解するのが難しかったですが、わかるととてもたのしかったです。映画はずっと見たいと思っていた映画でした。ストーリーもとても考えさせられるもので、素敵でした。映画の中で出てくるセリフが習った文法や単語だったりすると、「あ、これはこんな意味だ」と思えて、自分の韓国語力の伸びを感じられたので嬉しかったです。

次に寮での生活についてです。寮で何かあっても、寮の管理室にいる方も韓国語しか通じないので、何かあった時は全て韓国語でお話しされます。それがだいぶ理解できるようになったのでとても嬉しかったです。デリバリーでご飯を頼みたい時、頼み方がわからなくて、管理室の方に言ったら、管理室の方が頼んでくれて、とても親切でした。

今回のプログラムでは、人との出会いに恵まれていたと思います。まずは一緒にプログラムに参加した 9 人の仲間たち。慣れるまではわからないことばかりで、辛いこともたくさんあったけど、みんなと一緒にだから楽しく生活できました。韓国で出会った学生たち、現地で大学と私たちの架け橋になってくださった国際課のキムヨンシク先生、韓国語の授業でお世話になった先生、同じクラスの方々、たくさんの出会いがありました。このプログラムで出会った全ての方に感謝します。

今回の研修は、過去最悪の日韓関係であると言われている時期に行ってきました。正直、韓国に行く前までは、少し怖いと思っていました。実際、市内に出ると

やはりメディアの報道どおり、不買運動をしている方、反日運動している方がいらっしゃいました。研修始まってすぐに、地下鉄に乗っている時、年配の方に話仕掛けられて日本の学生かと聞かれ、何をしているのか聞かれて、短期研修と答えると少し嫌な顔をされたこともありました。やっぱり日本人は嫌われているのかと思いました。しかし、ほとんどの韓国の方は日本人とわかつても優しくしてくださったことを肌で感じられました。日本語で話しかけてくださり、両替所ではヤクルトをくれたり、食堂では、リンゴをサービスしてくださいったり、優しい方ばかりでした。韓国でできた友達に韓国に来るのが怖かったという話をしたことがあります。すると友達は、「韓国を好きでわざわざ韓国に来てくれている日本人に意地悪したりするわけない。反日の人々は日本人が嫌いなのではなく、日本政府が嫌いなのだと思う。」と言いました。私はその言葉を聞いた時、自分の視野をもう少し広げて物事を考えるべきだと思いました。韓国に対する誤解があつたことがわかりました。韓国に対する誤解というより、反日である韓国の方に対する誤解という方がいいかもしれません。自分の考えの愚かさを感じました。韓国に来てよかったです。1番強く感じた瞬間でした。

最後に、今回の研修で得られた韓国語力、人脈、モノの見方考え方を将来の自分のために発揮していきたいです。繰り返しになりますが、今回のプログラムで出会った全ての方に感謝します。



学生交流会にて大邱大学の学生さんとの食事

「韓国人と日本人」

経済学部経済学科 松本凌実

私は大邱大学プログラムに参加して語学学習を通じて韓国について様々なことを学びに行きました。私が韓国へ行こうと思った理由は、より自分の韓国語の能力を高めたいと思ったからです。私はもともと独学で韓国語を学習していましたが、少し独学の壁を感じていました。いくら独学で勉強したところで現地の言葉と勉強した言葉との違いは必ずあるからです。その違いを韓国人の友達と対話をする中で感じていました。そこで韓国に実際にいき、生活に韓国語を取り入れることで、より日常に近い韓国語を習得し、韓国語の能力を伸ばすことができるのではないかと考えました。また、韓国の文化などにも触れるができる交流や体験も含まれており、よりこのプログラムに魅力を感じ、行く決断をしました。

このプログラムではあらかじめプレースメントテストでクラスがわけられており、自分のレベルにあった授業を受けることができます。また、授業はすべて韓国語で行われるため、より実践的な韓国語に触ることも可能です。私たちのクラスでは、ペアワークなどを多く用意されており、ただ文法などの勉強をするだけではなく、実際に習った韓国語を使えるような機会が多かったため、とてもいい授業になったと思います。先生たちは日本語をできない人が多いですが、優しく、丁寧に教えてくださいました。また、先生自身の経験談をもとに、勉強以外のことも多く学ぶことができました。授業は午前中まで行われ、午後からは大邱市内ツアーやユノリ遊びや韓国料理作りなど様々な体験をすることができました。佐賀大学の人だけでなく、違う大学の人たちや一般の参加者たちとも触れ合えるいい機会になりました。割合的には日本人が圧倒的に多く、日本人に関しては男性の割合は10%もいませんでした。やはり、韓国を好きな人のほとんどが女性でK-POPから韓国に興味関心を持った人が多かったです。

授業が終わった後や休日は、友達や韓国人の知り合いと市内に出かけて、市内を探索したり、買い物をしたりしました。大邱はソウル、釜山に次ぐ、韓国で3番に大きな都市だといわれています。ただ、私は、この留学で大邱に行くまで大邱という都市を知りませんでした。ただ実際に行ってみると大邱は交通費も安く、大邱市内であれば120円で大方どこにでも行くことができました。市内の人は、ソウルや釜山同様に若者も多く様々な店が羅列しており、路上ライブなども行われていました。ただ大邱の交通は本当に危険でした。韓国のバスは日本のバスと違い、日本のように待ってくれません。少しでも遅れるとドアを閉められ、置いて行かれます。また、車内でも、席に座れないとバスのスピードが速く、運転が荒いため、倒れそうになります。タクシーでは一般道路でスピードが110キロを超えていた瞬間があり、とても怖かったです。日本と韓国の交通の違いを経験することができました。

私は韓国人が今日本に対してどのような考えを持っているのか興味を持っていました。日本と韓国は今、政治的関係が悪化し続けています。安倍総理も文大統領もお互い和解するような姿勢を見せず、経済的な措置をとり、慰安婦問題などを掘り返すなど様々なことを繰り返しています。そこで実際、韓国人は日本人に対してどのような感情を抱いているのか関心がわきました。韓国で仲良くなつた同じ経済学部のお兄さんたちに聞いたところ、韓国人は日本人が嫌いなのではなく、日本政府が嫌いだと言っていました。理由に関しては、日本人が文大統領に抱く感情と同様に、なぜ自国に対して、悪影響となるようなことばかりをするのかわからないとのことでした。市内に行った際にも、日本人に対してのデモではなく、安倍総理に対してのデモを2回も見ました。それほど韓国人は日本政府に嫌悪感を抱いていました。

日本人に関して聞くと、韓国人はマナーがよく親切な日本人がほとんど好きといっていました。ただ、韓国の高齢者の方たちにおいては、若者たちと考えが違うようで話をするときにも少し距離を感じました。バスの中で隣に座っていたおばさんと話したときにも、日本人といっただけで急に表情が変わり、わざわ

ざ後ろの席の方に行ってしまいました。やはり、歴史が近い分日本に対して悪い印象を持っている人たちもいるのだなと思いました。

日本と韓国は経済的にも切っても切れない仲だと思います。貿易にしても経済に必要な相手国ですし、K-POPや日本のアニメなどの文化はお互いの国を相互に行き来し、経済的にもいい関係をもたらしています。皆さんも韓国のものを街中で見ることが多いのではないかでしょうか。K-POPなどの音楽の市場は韓国では小さい分日本での売り上げが多くを占めているといわれ、日本なしではやっていけないといわれています。ただ、経済面とは裏腹に悪化する政治の関係は今後どうなっていくか見当もつきません。政治と経済、どちらが上であるかということは最大の難問だと思います。しかし、今客観的に見た場合、このまま政治の方が上にあり続けるようであるのならば、貿易など様々な面でお互いの国が不利益を被ると考えます。国民同士の交流を絶やさず、お互いの文化を尊重しあっていくことがこれから韓国と日本の関係においても、国際化する社会においても大切なことなのではないかなと思いました。



「留学での発見」

経済学部経済法学科 1年 石丸 美月

私は大邱大学プログラムに参加して、実際に体験することの重要性を実感しました。ここでは、大邱大学での授業や寮生活についてと、韓国での生活について、日韓の相違点や共通点を意識しながら書いてきたいと思います。

まずは、韓国語の授業についてです。日本で事前に受けたテストの結果をもとに、韓国語の能力ごとにクラス分けされ、韓国人の先生が指導してくださいます。私のクラスの先生は明るい女の方でした。クラスメイトは全部で15名程度。カナダ人とモンゴル人が1人ずつ、あとは日本人でした。年齢層も幅広く、高校生から70代の方までいらっしゃいました。日本人が多いこともあり、先生は日本語や英語で表現してくださることも多くわかりやすい内容でした。授業は教科書や先生が作ってくださったパワーポイントを用いて進められます。授業の中では様々な単語が出てくるので、語彙力がすごく伸びたと感じています。また、授業の中では声に出して復唱することが多かったです。声に出することで、自分は激音をきちんと發音できていないことを自覚しました。1人で韓国語の勉強をしていると發音をおろそかにしてしまいがちです。授業の最大のメリットは、ネイティブな發音を学べたことだったと思います。

授業ではないですが、プログラムの一環として色々な韓国文化を体験しました。ユンノリと呼ばれる遊びや、トッポキ作り、韓国映画鑑賞では大学内にある映画館で「ビューティー・インサイド」を鑑賞しました。実際に韓国の人々に教わるからこそ、韓国文化の面白さを体感することができました。

次に、寮での生活についてです。私は2人部屋でした。冷房は完備されており、シャワーとトイレも各部屋についていました。最初はユニットバスに抵抗感がありました。2日もすれば適応できました。冷蔵庫やウォーターサーバーは1階や3階に設置されています。韓国では水道水はそのまま飲むことができません。その為、ウォーターサーバーは飲み水の確保やカップ

ラーメンやお味噌汁を作る際に大変重宝しました。洗濯機や乾燥機は1回50円くらいで使用できます。アイロンもあり、洗濯に関して不便だと感じることはありませんでした。また、寮生活で特に驚いたことのひとつにセキュリティの万全さがあります。初日に顔を登録し、出入りの際には顔認証を必要とされます。日中は大邱大学の学生とみられる方が管理人室のようなところに在中しています。部屋に入るにも暗証番号が入ります。こんなに外から入ってくる人には厳しいのに、男女で部屋のフロアが分けられていないのは驚きました。価値観の違いがあるのかなと感じました。

日常生活においても日本との違いを多く見つけることができました。バスの運転の荒さ、公共交通機関の運賃の安さ、地下鉄の前面ガラスドア、接客態度、車についているスポンジ、コンビニの1人営業などです。特に交通機関については日本と異なる点が目立ちます。バスに乗るときは交通カードを使用します。これは日本も同じです。しかし、運賃は1回の乗車につき125円(現金払いだと140円くらい)。日本のように乗車距離に比例して運賃が上がるのではなく、1回の乗車ごとに運賃を払います。韓国のバスや地下鉄は国営のものなので、日本に比べて安価になっているようです。安い代わりと言ってはなんですが、バスの運転はものすごく荒いです。想像以上でした。そもそも、日本の最高速度は40km程度ですが、韓国では80kmまで出せる区間もあります(ソウルは60kmまで)。スピードは速いですし、降車時は素早く降りなければ発進されてしまいます。

地下鉄に乗る際のホームドアは安心感もあり良いアイデアだと思いました。日本でも導入してほしいですが、日本の場合は様々な大きさの電車が通るためなかなか難しいそうです。

また、以前韓国を旅行した際には気づかなかった点として、車についているスポンジのようなものがあります。普通に道路を走っている車やタクシーまで、日本では目にしたことのないスポンジのようなものが前後のドアの開く部分の端っこに付いています。韓国で走っている車は白や黒、シルバーが多いのに対して、このスポンジは青や白、黄色にシルバーとカラ

フルでした。気になって調べてみると、このスponジの正体は“ドアガード”と呼ばれるものでした。役割はその名の通りドアを開ける時に壁や隣の車に当たつても傷が付くのを防ぐことです。韓国では駐車場が少ないため、駐車時に隣の車との距離が近くなってしまうことも多いそうでドアガードは大きな役割を果たしているようでした。また、新車が納車される際には必ず付いてくるようで、新車の目印にもなっているそうです。

ここまで書いてきたように、留学を通して日韓の類似点と相違点をたくさん見つけることができました。韓國の人の人柄や、大邱市内の様子など書ききれていらない部分も多々あるので、ぜひ韓国へ留学をして実際に体験してほしいです。



本館前の広場

「韓国で学んだこと」

経済学部 経済法学科 1年 脇山 愛理

私は大邱大学プログラムに参加して、韓国の文化や社会について知り、それと同時に、日本の文化、社会について再認識することができました。日韓関係が良くない中での研修だったので不安もありましたが、私が接した人たちは、寮への帰り方が分からなくなったりときには車で送ってくれるほど親切で、無事、充実した18日間過ごすことができました。

まず、毎日4時間あった韓国語の授業では、ハングルの書き方、読み方から、簡単な日常会話まで教えてもらいました。私たちのクラスは、韓国語が初めての人ばかりだったので、先生は、韓国語だけでなく、ジェスチャーや英語を使って、分かりやすく教えて下さいました。最初は、先生の言っている韓国語が全く分からませんでしたが、簡単な動詞などを習っていくうちに、分かるようになりました。ハングルも読めるようになり、簡単な日常会話も身につきました。授業を受けていく中で一番びっくりしたのは、韓国語が日本語ととてもよく似ているということです。語順はほぼ同じだし、発音もそっくりな言葉がいくつもあります。調べてみると、韓国語も日本語も、中国語の影響を受けていることや、日本が韓国を併合していた頃に韓国に日本の言葉が伝わったことが理由らしいですが、似ているおかげで、思ったよりも簡単に韓国語を理解することができました。

プログラムの午後の時間には、文化体験などがあり、大邱大学の学生さんたちと交流する機会もありました。学生さんたちはフレンドリーで、一緒に市内に行ったりできて楽しかったです。韓国の大学生のことも教えてくれたのですが、韓国では、大学は私立を含め無償なのだとそうですが、うらやましいと思いました。しかし、就職は厳しく、TOEICでも良い点数を取らなければいけないと仰っていました。また、男性には兵役があるので、2年近く休学しなければなりません。その点では、日本の大学生は恵まれているなと思いました。

韓国を見て気づいたことは、デジタル化が進んでいる所が多いことです。私たちが滞在した寮の玄

関には、虹彩認証が導入されていました。最初に虹彩の登録をしたら、そのあとは、機械の前で立ち止まるだけで、機械が個人を識別して扉が開き、出入りができました。私は虹彩認証を使うのは初めてだったし、学生寮にまで先端技術が使われているのかと驚きました。また、各部屋のドアも、鍵やカードではなく暗証番号を入れるタイプのもので、これは、韓国の映画鑑賞の時間に観た映画の中でも全く同じものが使われていたので、韓国では一般的なのだなと思いました。

そして、キャッシュレス化がとても進んでいました。コンビニではもちろん、バスや地下鉄でもカードで支払うことが一般的だったし、レストランや大学の食堂でもクレジットカードで支払いました。カードを持っていれば、わざわざ現金を出さなくてもほとんどのものが買えるので、支払いが簡単でした。しかし、現金で小さいお金を作りたいときに、コンビニに行って5万ウォン札を出すと、お店の方がすごく困った顔をされ、もっと小さいお金はないの？と必ず言われたので、困りました。現金を使う人が少ないので、お店にもあまりお釣りがないのだなと思いました。

それから、韓国の人々は本当に辛いものが好きだということも、分かりました。大邱大の学生さんから、韓国の料理はほとんど辛いと聞いていましたが、想像以上で、多くの韓国料理にコチュジャンが使われていただけでなく、コンビニのおにぎりやサンドイッチ、カップ麺、サラダまで、辛いものが多くて、もちろんおいしいと思う食べ物もたくさんありました。コンビニで辛くないと思って買ったものがすごく辛かったときは、ああ、またかと思ってしまいました。しかし、それを、韓国の人々は毎日普通に食べているので、国の食文化によって、こうも人の味覚は違うのかと思いました。日本の料理も、日本ならではの特徴があり、海外の人にとっては、食べ慣れない味なのだろうかと思いました。

また、私はこの研修で初めて海外に行ったのですが、日本にいるときには気づけなかったことにも気づきました。私は大学で、留学生との交流を積極的にやっているのですが、実際に自分が留学生になって外国で勉強するという経験をしたことで、その大変さがよく分

かりました。まず、授業を外国語で受けるということが、普通に授業を聞くよりもすごくエネルギーがいります。それから、慣れない環境で生活することは、不安やストレスも多いです。その中で学問を極めていくことは、相当な努力を要することなのだと分かりました。それから、公共の場所での、複数の言語での表示の重要性も、身をもって感じました。やはり、文字による情報が入らないと、私たちが外から得る情報のかなりの部分が入って来なくなります。レストランではメニューが分からないし、駅などでは特に不安になります。そのときに、英語でも、何か分かる言葉で書かれていたらすごく助かります。私は、日本を出る前は、下に小さく書かれている外国語が、これほど外国から来る人にとって重要なことは思いませんでした。留学生や外国人の気持ちが分かったことは、今後、彼らと関わる際に、大いに役立つと思います。

この大邱大学プログラムを通して、日本では学べない多くのことを学ぶことができました。“当たり前”はいくつもあることに気づき、日本を客観的に見ることができるようになりました。このような貴重な機会を頂けて良かったです。ありがとうございました。



飛行機から見た大邱

「大邱大学プログラムに参加して」

医学部看護学科1年 福島さくら

私は、大邱大学での18日間短期留学に参加しました。初めての海外、初めての韓国で沢山の経験をすることができました。韓国の語学や文化、伝統について18日間みっちり学ぶことができました。

大邱大学では、レベル別に分かれて韓国語を学ぶことができ、自分の実力に合ったレベルで学んでいくことができます。そのため、一から韓国語を学びたいという方も十分満足できるプログラムになっていると思います。私自身、全く韓国語が分からずの状態からの参加であったため、言葉が通じないことへの不安がありました。また、現在日本と韓国との関係が悪く、韓国に行くこと自体に不安を感じていました。韓国の方が日本に対して悪いイメージを持っているかもしれない、仲良くしてもらえないかもしれないという不安が韓国に行くまで私を襲っていました。しかし、大邱大学の先生方も学生も優しく、わからない時には助けていただき、そうした不安はいつしかなくなっていました。

韓国での日々は何もわからない状態からの始まりだったため、学ぶことの一つ一つが新鮮でした。その日に学んだ言葉をショッピングに行った際に使うことができたり、友達と韓国語を使いあつたりすることで実践する楽しさを感じることができました。日本では当たり前に言うことができていた言葉でも、違う言語になると、途端になんと言ったらいいか分からず、言うことができなくなるというもどかしさを感じました。しかし、このもどかしさがあることで、韓国語をもっと上達させたいという向上心がうまれました。大学で、韓国語を学ぶ時間は平日の午前9時から午後1時まででした。日常で使う会話を学びました。挨拶やショッピングに行ったときに使える言葉などすぐに使うことができるものばかりで、実際に学んだことを使うのがとても楽しかったです。午後は大学見学や大邱市内ツアーや文化探訪がありました。また、韓国の伝統遊びを教えてもらったり、韓国映画を見たりと韓国の文化を知る

こともできました。こうした文化体験の中で最も印象に残っていることは、トッポギ作りです。今まで食べることはあっても作ることはなかったため、新しい体験でした。この時一番驚いたことは、味付けで入れるコチュジャンの量です。大量のコチュジャンを入れたのに、これでも少ない方だと言っているのを聞いてとても驚きました。韓国にきて、辛いものへの耐性が前よりもついた気がします。チゲ、キムチ、ビビンバなど辛いものがたくさんありました。しかし、この辛さは、辛いけど美味しいからまた食べたくなるという癖になる辛さでした。韓国での食べ物はとても美味しいものばかりでした。

大邱大学は韓国の中でも面積が上位5位に入る広さだそうです。実際に見てみると、本当に大きく、現在地から行きたい場所へ行くためには、10分かかるのは普通のことびっくりしました。大学内見学の際、プールやゴルフもあると聞き広すぎるくらいだなと思いました。そのため、大学内をセグウェイに乗って移動している学生も多かったです。私自身、ここで生活により、毎日1万歩歩くということが普通になっていました。また、大邱は韓国の中で最も暑いとも言われています。大邱大学に来たアフリカ人の留学生がアフリカよりも暑いと言っていたという話を聞いて驚きました。確かにとても暑かったです。ソウルに行く機会もあったのですが、ソウルと比べると暑さがかなり違うなと思いました。ソウルの人は長袖をしている人がいるくらい過ごしやすい気候に対して、大邱は半袖でいても暑いと感じるほどでした。

大邱は、ソウル、釜山に次ぐ大きな街です。大邱市内は店が多くとても栄えています。また、交通の便も良くとても過ごしやすい街でした。移動はバスや地下鉄が中心でした。大邱大学から市内まではバスで1時間くらいかかりますが、日本と違いどこまで行つても料金が同じであり、かなりお得だと思います。バスの料金は125円くらいで、急行というバスになると160円くらいでした。どこに行ってもこの値段なので、バスを利用することはとても多かったです。地下鉄もバスと同じ仕組みで移動する上でとてもオススメです。

今回この大邱プログラムに参加してみて、自分の成長を感じました。言葉が通じるありがたさを感じたり、今までの当たり前のことが当たり前ではないということを知ったりと多くを学びました。日本語が通じないからこそ、どうにかして伝えようと伝え方を考えるきっかけにもなりました。英語が共通言語であるということも身にしみて感じました。また、たくさんの人々と積極的にコミュニケーションをとることを心がけていました。韓国語の授業で習ったことを使えた時、自分が言ったことが伝わった時の嬉しさは、今までに感じたことがないものでした。

このように、大邱大学のプログラムに参加することで自分が成長できたと思います。自分の視野を広げることができ、毎日が当たり前のことではないと分かり、日常生活を大事に生活できるようになりました。韓国での18日間はとても充実したものでした。

初めての海外でしたが、他の国へも行ってみたいと思いました。これからも自分が知らない世界を見て、新鮮を感じていきたいです。



大邱大学生との大邱市内ツアーデの写真

「韓国での学び」

医学部看護学科 1年 生駒莉彩

このSUSAPのプログラムに参加して沢山のことを学び、経験することができたと感じています。

まず大邱大学校についてお話ししたいと思います。大邱大学校は私立の大学です。そして、大学の土地の面積がとにかく広いと感じました。韓国の大学でトップ5に入る面積の広さだそうです。大邱大学の学生は大邱周辺出身の方が多いですが教育学部とリハビリ健康学部が全国的有名です。教育学部は韓国全体の中で就職率が全国的で1位です。リハビリ健康学部は韓国で大邱大学から始まったため学部競争が激しいとのことです。

私は大邱大学で18日間を過ごしました。18日間では大学全ての建物を把握しきれませんでした。それほど広く、建物が多くあります。大学内に食堂は3つ以上あり、チェーンハンバーガー店やパン屋、映画館、ジム、プール、ゴルフ場もありました。それほど沢山の魅力的な施設がある中で私が最も惹かれた所は図書館が24時間空いていることと、カフェのような感覚で勉強できる施設があったことです。その場所では図書館ほどずっと静かにする必要もなく、友人と話し合いをしたり、ソファーでくつろいで休憩を取ったりしながら勉強ができます。韓国人の学生はカフェで勉強をよくするそうです。そのような場所を作った理由は韓国人が沢山勉強をするからだと思いました。

夏休みにもかかわらず多くの学生が図書館で勉強している姿を見かけました。沢山勉強するわけを考えた所、やはり韓国の就職難や、学歴社会が根強いことが理由ではないかと考えます。例えば、TOEICの点数です。韓国ではきちんと就職するための目安として800点だそうです。とても高いと思います。それゆえ、私は日本と比較してみました。日本のTOEICの平均点は580点です。日本で最高峰とされる大学の平均点は688点でした。やはり高いことがわかります。

このように韓国は英語教育にも力を入れています。日本での高校生の授業で習う英語のレベルは韓国の中学生前半に習うそうです。韓国語を伸ばすことはもち

ろんですが、韓国では韓国語が通じない時、最悪英語を使っていたため英語の重要性も身に染みて感じました。

大邱大学との学生との交流をしました。2人の学生が大邱大学の学費は無料だそうです。なぜなら、父親がHYUNDAIに勤務しており、その会社からの支援により学費が無料の大邱大学に進学したそうです。正直、私は驚きました。この話を聞いて私は、韓国で大きな力を持つ会社が韓国の国民の多くの生活を支えている部分があると考えました。どこの国でもそのことはあると思います。しかし、韓国ではその影響力がかなり大きいのではないかと考えます。日本で韓国の大いな財閥のニュースをよく見かけます。これから、それらの問題を見る時の視点が自分の中で変わると思います。

私が韓国で気づいたことは、韓国の道路や多くのお店に韓国の国旗があることです。バスに乗る機会が沢山あったのですと外を見ていました。あまりに沢山の国旗を見ました。この光景は日本にはあまり無いと思います。道路沿いの電柱1本1本に国旗が付いていました。

韓国は愛国心がとても強く、そのことを多く表現していると思いました。たしかに、日本にいる時から韓国は自分の国を愛することを大事にしているイメージは少しありました。そのことを韓国で実感しました。

日本で留学生の方に教えていただいた通り、お客様がレジに来ない限りコンビニの店員はずっと座って電話をしたり、パソコンを見たり、携帯を触っていました。初めて見た時、正直驚きは大きかったです自分が客側で居る時に店員が何もせずレジのところでただ立っていられるよりは良いと思います。店員が電話をしてたりして不快とかそういうこともなかった上、客側も気楽に時間をかけてお店の中にいることができる所以私は韓国のコンビニの働き方に賛成します。

韓国人はよく電話をすることに気づきました。大学内で一人で歩いている人は私が見た限り電話をしてない人より電話している人が多かったと思います。

地下鉄やバスの中、お店でも多くの人が電話をしていました。韓国人は電話を好むそうです。日本では電話は重要であったりしなければ殆どLINEなどを使って

コミュニケーションを主に取っているイメージがあります。韓国では、本当に些細なことでも電話をするそうです。1日に何回もします。

韓国に行って自分で積極的になることを意識しました。google翻訳などに頼ることもできますが、自分の知っている単語やジェスチャーを使って伝える努力はしたと思います。こちらが一生懸命話すと、相手もきちんと聞いてくれる場面が多かったです。積極的に話すということは重要だと感じました。



大邱市内の写真